



KWANSEI GAKUIN
SYMPHONY
ORCHESTRA
SINCE 1913

100

関西学院OB交響楽団
創立10周年記念 特別演奏会
～関西学院交響楽団創部100周年を祝って～

ALL
KWANSEI
ORCHESTRA
Anniversary Concert



125
関西学院
1889-2014



関西学院 院長

ルース・M・グレーベル

この度は、関西学院OB交響楽団創立10周年記念特別演奏会を開催されること、そして現役の学生が活躍する関西学院交響楽団が創部100周年を迎えますことを、お祝い申し上げます。

関西学院交響楽団のOBでいらっしゃった畠道也前院長は、長年、交響楽団の発展にご尽力されました。そして畠先生の院長就任を記念して関西学院OB交響楽団が設立されたほど、お互いに深い絆で結ばれていました。畠前院長の関西学院葬の際、天まで届くような美しい演奏を関西学院OB交響楽団の皆様がしてください、参列者の深い悲しみを慰めてくださったことを今でも覚えています。

音楽学部をもたない関西学院大学で100年の歴史をもつ優れた交響楽団を擁することができる、才能に恵まれた学生、様々なサポートをしてくださる卒業生の方々、そして畠前院長をはじめ熱意ある指導者のご協力の賜物です。

交響楽団は、自らの楽しみのためだけではなく、大勢の方々を楽しませ、心を豊かにする演奏をするため、日々練習を積み重ねています。そして、OB交響楽団も大学を離れ、それぞれ忙しい人生を歩まれている中、たゆまぬ努力を続けられています。これこそ、生涯を通してのスクールモットー“Mastery for Service”的体現であり、関西学院を愛された畠前院長が望まれたものではないかと思います。

関西学院交響楽団と関西学院OB交響楽団の皆様に感謝しつつ、これから益々のご活躍とご発展を心よりお祈りいたします。



関西学院同窓会 会長 大橋 太朗

「関西学院OB交響楽団創立10周年記念特別演奏会」が盛大に開催されることを心からお慶び申し上げます。

OB交響楽団は当時の常任指揮者故畠道也先生が関西学院院長に就任されたのを祝い「畠記念オーケストラ」として発足したと伺っています。故畠道也先生は関西学院交響楽団のみならず母校関西学院の発展にも多大の貢献をされました。その意義ある楽団が10年と言う大きな節目を迎えたのはOB・OG諸氏のご努力の賜物と心からの敬意を表します。

また、関西学院交響楽団も創部以来100年という記念すべき年となります。関西学院の神戸原田の森キャンパスで産声をあげ、その後現役、OB・OGの皆さんが力を合わせ、幾多の苦難を乗り越えて今日に至りました。関西学院交響楽団の誇るべき歴史と伝統を基に、OB交響楽団の日頃の弛まぬ研鑽と精進の結果がこの素晴らしい会場で存分に發揮されることを期待致します。

今回の演奏会が地域社会の文化貢献にも寄与し、ご来場の皆様の生活に安らぎと感動をもたらすことが出来ればと心から願っております。まさに関西学院のスクールモットーである“Mastery for Service”を、演奏を通じて実践されていると言えます。

「関西学院OB交響楽団」及び「関西学院交響楽団」の益々の発展と団員諸氏のご活躍を祈ります。



関西学院交響楽団OB会 会長 幸田 盛起

本日はお忙しい中ご来場頂きまして、心より御礼申し上げます。

関西学院交響楽団は1913年に創部され、本年めでたく100周年を迎えることが出来ました。この長い年月に渡る皆様のご支援に心より感謝申し上げます。同時に関西学院OB交響楽団は10周年を迎え、これを機に記念行事として、本年、兵庫県立芸術文化センター大ホールに於きまして、特別演奏会を開催する運びとなりました。

指揮者は、平成以降の現役学生の定期演奏会を、計10回客演指揮された田中一嘉先生にお願いいたしましたところ、幸いご快諾頂きました。平成卒は勿論、昭和卒のOB・OGも大喜び!参加者は遂に100人を超みました。集まった20代~70代までのOB・OGはお互いにコミュニケーションを深めつつ、本日の演奏に向けて研鑽努力して参りました。

祝100周年にふさわしい曲、若手からオールドまで満足できる曲、ご来聴頂くお客様に楽しんで頂ける曲、など考慮し選曲致しました。本日はプログラムの前半と後半共に、交響曲が予定されていますので、かなり長い演奏時間が必要となりますのでご了承下さい。

この演奏会を開催するにあたり、100周年実行委員会とOB会の役員の皆様、ご協力下さいましたご家族の皆様に感謝申し上げます。

関西学院OB交響楽団 ALL KWANSEI ORCHESTRA

創立10周年記念 特別演奏会 ～関西学院交響楽団創部100周年を祝って～

指揮 田中一嘉
Conductor : Tanaka Kazuyoshi

エドワード・エルガー 行進曲「威風堂々」第1番 作品39-1

Edward Elgar March "Pomp and Circumstance" No.1 in D-major op.39-1

フランツ・リスト 交響詩「前奏曲」(レ・プレリュード)

Franz Liszt Symphonic Poem "Les Preludes"

ルートヴィヒ・ヴァン・ベートーヴェン 交響曲第5番 ハ短調 作品67『運命』

Ludwig van Beethoven Symphony No. 5 in C-minor op.67

- I. Allegro con brio
- II. Andante con moto
- III. Allegro
- IV. Allegro

～休憩（20分）～
intermission

ピョートル・イリイチ・チャイコフスキー 交響曲第5番 ハ短調 作品64

Peter Iljitsch Tchaikovsky Symphony No. 5 in E-minor op.64

- I. Andante - Allegro con anima
- II. Andante cantabile, con alcuna licenza
- III. Valse. Allegro moderato
- IV. Finale. Andante maestoso

2013年11/4 (月・祝) 14:15開場 15:00開演 兵庫県立芸術文化センター KOBELCO 大ホール

主催 ● 関西学院交響楽団OB会

後援 ● 兵庫県 西宮市 西宮市教育委員会 公益財団法人西宮市文化振興財団 神戸新聞社

兵庫県オーケストラ協議会 関西学院同窓会



指揮者 田中一嘉

Conductor: Tanaka Kazuyoshi

東京生まれ。桐朋学園大学音楽学部卒業。指揮を故斎藤秀雄、小澤征爾、秋山和慶、尾高忠明の各氏に師事。コントラバスを江口朝彦、堤俊作の両氏に師事する。

在学中より同大オーケストラ定期演奏会、オペラ公演等を指揮し、故斎藤秀雄、森正、秋山和慶の各氏、及びブローダス・アール氏、河野俊達氏、フランコ・フェラーラ氏らの指導を受ける。

学外では、日本オペラ協会、長門美保歌劇団、東京アカデミー合唱団指揮者として、数多くのオペラ、特に宗教音楽分野での実績を積む。

1976年、大学在学中に第4回民音指揮者コンクール(現、東京国際音楽コンクール<指揮>)入選。奨励賞受賞。卒業後、東京シティ・フィルハーモニック管弦楽団指揮者、群馬交響楽団指揮者を歴任。これまでに東京交響楽団、新日本フィルハーモニー交響楽団、東京フィルハーモニー交響楽団、大阪フィルハーモニー交響楽団、神奈川フィルハーモニー管弦楽団、札幌交響楽団、九州交響楽団、ニューフィルハーモニー交響楽団、オーケストララ・アンサンブル金沢等、日本の主要オーケストラを指揮する。

1992年には、ヤナーチェク春の国際音楽祭(チェコ・オストラヴァ)にてヨーロッパデビュー。1995年には、カルロビ・ヴァリ交響楽団を指揮。

2000年、ドイツ・ロットヴァイル夏の音楽祭、2001年、ベルリン日本週間での公演、2003年、ウィーン・ムジークフェラインザールでの日墳合同第九演奏会等、その活動は多岐に及んでいる。昭和音楽大学講師。テアトロ・ジーリオ・ショウワ・オーケストラ常任指揮者。



創部70周年記念第62回定期演奏会
1983年サンフォニーホール

田中一嘉先生の関西学院交響楽団客演指揮歴

第77回(1991/7) 第91回(1998/6) 第101回(2003/6)
第81回(1993/6) 第92回(1999/1) 第102回(2004/1)
第83回(1994/6) 第97回(2001/6)
第86回(1996/1) 第98回(2002/1) 計10回



関西学院OB交響楽団 ALL KWANSEI ORCHESTRA

演奏会履歴

会場: 関西学院会館 レセプションホール「風の間」「光の間」
音楽監督・指揮: 西村順吉(昭和32年卒団・元京都市交響楽団コンサートマスター)

○第1回演奏会(第35回総会) 2004年9月12日(日)

・ ブラームス 大学祝典序曲
・ ベートーヴェン 交響曲第5番ハ短調「運命」
・ ワーグナー 楽劇「ニルベルグのマイスタング」前奏曲
・ メティンシ アリア(アンコール)

○第2回演奏会(第36回総会) 2005年9月11日(日)

・ シューベルト 交響曲第3番「未完成」
・ ドヴォルザーク 交響曲第9番「新世界」
・ メティンシ アリア(小寺武四郎先生への追憶のために)

○第3回演奏会(第37回総会) 2006年11月12日(日)

・ チャイコフスキ 交響曲第5番 ハ短調
・ ヴェルディ 歌劇「アイダ」より凱旋行進曲
・ シベリウス 交響詩「フィンランティア」(合同演奏)

○第4回演奏会(第38回総会) 2007年11月11日(日)

・ モーツアルト 交響曲第31番 二長調「カリ・K.297
・ シベリウス 交響曲第2番 二長調 O.p.43
・ エルガー 行進曲「威風堂々第1番」(合同演奏)

○第5回演奏会(第39回総会) 2008年4月25日(土)

・ メティンシ アリア
・ ベートーヴェン 交響曲第1番より第2楽章
・ バッハ G線上のアリア
・ マスカニー 歌劇「カルメン」から間諜曲 他

○第6回演奏会(第40回総会) 2009年9月13日(日)

・ モーツアルト ロマンスへ長調(独奏: 西村順吉氏)
・ ブラームス 交響曲第2番ニ長調 O.p.73
・ チャイコフスキ 交響曲第5番 ハ短調より第4楽章(合同演奏)

○第7回演奏会(第41回総会) 2010年9月12日(日)

・ ベートーヴェン ロマンスへ長調
・ リッシニー 歌劇「セビリアの理髪師」序曲
・ ドヴォルザーク 交響曲第8番ト長調
・ ワーグナー 楽劇「ニルベルグのマイスタング」前奏曲(合同演奏)

○第8回演奏会(第42回総会) 2011年10月16日(日)

・ チャイコフスキ スラブ行進曲
・ ベートーヴェン 交響曲第4番イ長調
・ マーラー 交響曲第1番より第4楽章(合同演奏)

○第9回演奏会(第43回総会) 2012年10月14日(日)

・ ワルトイフェル スケーターズ・ワルツ
・ ハイドン 交響曲第104番ニ長調「ロンドン」
・ チャイコフスキ 交響曲第4番ヘ短調より第4楽章(合同演奏)

団体名について

1913年(大正2年)にリヒアルト・K・ライフ氏により創設された「関西学院交響楽団」。実は始めからこの名称ではなく、そこへ辿り着くまで時代や状況に合わせていくつかの変遷がありました。

まず創設時はライフ氏により「ストリングバンド」と命名されました。10人に満たないアンサンブルから出発したようです。その後、1926年(大正15年)には人が増えて少し編成が大きくなつたのでしょうか、「オーケストラ・クラブ」の名で演奏会を行い、しばらくはそう名乗っています。

「関西学院交響楽団」の名称が初めて登場したのは1940年(昭和15年)の「第三回文化向上運動 - 音楽と映画の会」においてでした。ただその2週間ほど前の演奏会では從来名の「オーケストラ・クラブ」となっているので、「交響楽団」としたのはこの催しのためだけであったようです。翌1941年(昭和16年)あたりから戦争の影響か、外語標記をやめて「管弦楽団」とし、以後戦時中はこの団体名を用いています。

学生運動のため一時活動を休止していた当団は戦後の1946年(昭和21年)、「管弦楽部」として再出発しました。ときには「関西学院オーケストラ」とも呼び、そして1947年(昭和22年)12月に「高商祭特別演奏 関西学院交響楽団」と題する演奏会を記録に見ることができます。このあたりから同団体名が頻繁に用いられ、定着していったようです。

なお名称に「大学」が入っていないのは、この当時、大学生に限らず学院中学部生、高等部生も団員であったためで、その名残によるものです。

関西学院交響楽団

発したようです。その後、1926年(大正15年)には人が増えて少し編成が大きくなつたのでしょうか、「オーケストラ・クラブ」の名で演奏会を行い、しばらくはそう名乗っています。

「関西学院交響楽団」の名称が初めて登場したのは1940年(昭和15年)の「第三回文化向上運動 - 音楽と映画の会」においてでした。ただその2週間ほど前の演奏会では從来名の「オーケストラ・クラブ」となっているので、「交響楽団」としたのはこの催しのためだけであったようです。翌1941年(昭和16年)あたりから戦争の影響か、外語標記をやめて「管弦楽団」とし、以後戦時中はこの団体名を用いています。

学生運動のため一時活動を休止していた当団は戦後の1946年(昭和21年)、「管弦楽部」として再出発しました。ときには「関西学院オーケストラ」とも呼び、そして1947年(昭和22年)12月に「高商祭特別演奏 関西学院交響楽団」と題する演奏会を記録に見ることができます。このあたりから同団体名が頻繁に用いられ、定着していったようです。

なお名称に「大学」が入っていないのは、この当時、大学生に限らず学院中学部生、高等部生も団員であったためで、その名残によるものです。

コンサートマスター [リスト] 中田信(平24)
[ベートーヴェン] 奥田尚之(昭50)
[チャイコフスキ] 義則圭司(平8)

団内指揮 江嶋純吉(平8)
吉田徹(昭63)
セクション[木管] 杉本賢(平5)
リーダー[金管] 吉田徹(昭63)

Violin

杉浦敬久(昭33)
松村欣一(昭35)
長谷川恭三(昭38)
豊田智子(昭49)
奥田尚之(昭50)
松井容子(昭51)
榎原敬治(昭54)
五百歳強(昭55)
篠田博子(昭56)
鳩野哲也(昭56)
山口康子(昭57)
井本めぐみ(昭59)
寺田容子(昭59)
坂本勝(昭62)
稻田朋子(平1)
田中由恵(平1)
久保康子(平2)
長井靖幸(平3)
吉田雅紀(平4)
義則圭司(平8)
演裕輝(平13)
菊地由佳子(平14)
浅沼佳奈(平15)
仲村暢子(平15)
千星沙織(平18)
美濃出咲子(平19)
笛野瑞穂(平22)
松田沙紀(平22)
青山裕里(平23)
大西由利子(平23)
西山充子(平23)
福島一花(平23)
岡市純平(平24)
中田信(平24)

Viola

加茂野真理(昭44)
堀口陽子(昭44)
吉江育子(昭48)
宇佐美範子(昭53)
井口秀男(昭57)
井口玲子(昭58)
芹生朋子(昭59)
中田裕之(昭61)
額川昌子(平1)
砥上美也子(平1)
稻田丈二(平3)
糸川陽子(平14)

Cello

松永修(昭34)
幸田盛起(昭41)
小谷修三(昭50)
佐原正哉(昭50)
島岡祥晃(昭53)
小田英夫(昭55)
門野良彦(昭59)
高嶋明子(昭62)
陳香純(平20)
清水寛子(平22)
兼坂絢香(平23)
中山真裕美(平23)
疋田真美(平23)

Contrabass

今西博雄(昭45)
内藤純(昭49)
木根淵至(昭52)
吉田孝司(昭57)
奥田和弘(昭61)
採田賢志(平1)
唐戸朋子(平12)
矢間明日香(平25)
三井剛介(文3回生)

Flute & Piccolo

田仲耕士(昭44)
長井靖幸(平3)
脇坂千晶(平4)
三輪啓子(平8)
加藤奈央佳(平15)
坂口麻衣子(平23)
邑田久美子(平24)

Oboe

辻務(昭35)
米田成己(昭42)
大西邦夫(昭51)
片山絢香(平23)

Clarinet

阪田吉文(昭49)
榎原順子(昭55)
今西弘之(昭59)
高山真衣(平23)

Fagotto & Contrabassoon

橋本浩一(昭58)
長村和子(平3)
杉本賢(平5)
安野とも子(平10)
上林裕美子(平24)

Horn

水谷正氣(昭50)
太田吉人(昭55)
芹生幸一(昭59)
吉田徹(昭63)
宮崎志津(平5)
高橋万里(平6)
上原久和(平14)

Timpani & Percussion

吉田知子(昭63)
吉岡辰郎(平4)
江嶋純吉(平8)
義則圭司(平8)

木下賢二(平4)
杉本賢(平5)
樋口博(平6)
小味渕彦之(平7)
江嶋純吉(平8)
義則圭司(平8)

安野とも子(平10)
貝谷健介(平11)
川野章(平16)
伊藤洋介(平18)
森川愛(平20)
古林卓(平21)

岩間奈保子(平22)
浦優介(平23)
西山充子(平23)
雪定祐衣(平24)

ステジマネージャー 小味渕彦之(平7)
ロビーマネージャー 岩間奈保子(平22)

チケット管理 長村和子(平3)
広報・デザイン 益永直枝(平1)

OB会事務局 e-mail:oda@mernenet.jp

関西学院交響楽団OB会

顧問 芝田正夫(教育学部教授)

会長 幸田盛起(昭41)

相談役 牧野泰宜(昭31)

副会長 井上哲(昭42)

幹事 小田英夫(昭55・代表幹事・事務局)

入員 収(昭49・会計幹事)

吉田孝司(昭57)

小味渕彦之(平7)

鶴宏樹(平17)

関西学院OB交響楽団

音楽監督 西村順吉(昭32)

アドバイザー 松永修(昭34)

阪田務(昭36)

コンサートマスター 佐藤克哉(昭52)

代表 井上哲(昭42)

運営幹事 阪田吉文(昭49)

北村嘉朗(昭50)

小田英夫(昭55・兼任)

吉田徹(昭63)

益永直枝(平1)

長村和子(平3)

長村和子(平3)

長村和子(平3)</p

Program Notes



エドワード・エルガー 行進曲「威風堂々」第1番 作品39-1 Edward Elgar March "Pomp and Circumstance" No.1 in D-major op.39-1

エドワード・エルガー(1857-1934)は近代イギリスの作曲家です。熱烈な愛国者でもあった彼は、若くして作曲家としての地位を確立し、保守的な作風でありながらも、長く低迷していたイギリス音楽界の再興に大きく貢献しました。

『行進曲「威風堂々」第1番』は1901年(44歳)の作品です。5曲書かれた、同じ名を持つ行進曲の中でも、最も有名なものです。聞き慣れない題名ですが、英語では "Pomp and Circumstance" となり、直訳すれば「輝きと壯麗さ」でしょうか。これはシェークスピアの『オセロ』の台詞からの引用です。

当時のイギリス国王、エドワード7世は、ロンドン初演を聴いて感激し、曲の中頃で奏でられる、朗々と響き渡るメロディに歌詞を付けることを提案しました。このことがきっかけで誕生した歌が、今日イギリスの第2の国歌としても親しまれる「希望と栄光の國」です。ロンドンの夏を代表する音楽祭「プロムス」の最終日でも、聴衆の熱狂とともに、場内総立ちの大合唱で歌われることが長らくの恒例となっています。

なお単独の歌としたのは出版社の企画であり、この「希望と栄光の國」は少し歌詞が変えられて、国王の戴冠式のために書かれた《戴冠式頌歌》という声楽曲の最終曲に收められました。

意外にも関西学院交響楽団の定期演奏会では取り上げられたことがないのですが、1989年の「第1回オランダ演奏旅行」でアンコールとして用意され、7月2日にアムステルダムコンセルトヘボウで演奏されました。



フランツ・リスト 交響詩「前奏曲」(レ・プレリュード) Franz Liszt Symphonic Poem "Les Preludes"

フランツ・リスト(1811-1886)は、ヨーロッパ音楽界のマルチタレントでした。作曲に留まらず、ピアニスト、指揮者、教育者、文筆家としてあらゆる分野で活躍します。まさに19世紀の大スターと言ってよいでしょう。

リストは、音でストーリーを綴った「交響詩」というオーケストラ曲を創案しました。13曲の交響詩が残されました。その中でも最も有名なのが、この《前奏曲(レ・プレリュード)》です。すでに作曲されていた別の曲に標題(プログラム)を付けて書き直したことが、近年あきらかになっています。1854年(43歳)に完成されました。

フランスの詩人アルフォンス・ド・ラマルチーヌの詩が標題に引用されていて、「人間の生は死への前奏曲である。無垢な愛は嵐によってさえぎられ、傷ついた魂は静かな田園において癒しを求める。しかし人は自らのために戦いへと立ち上がるのである」という内容です。最後のクライマックスに向けて作品はドラマティックに綴られています。

最近では第120回(2013.6.30 尼崎アルカイックホール)で取り上げられました。さらに第102回(2004.1.17 尼崎アルカイックホール)では本日もタクトを握る田中一嘉氏の指揮で演奏しています。第15回(1958.11.22 大阪市中央公会堂)、第68回(1986.12.21 神戸文化ホール大)、第93回(1999.6.25 尼崎アルカイックホール)にもプログラムに入っています。定期演奏会では計5回ですが、1992年夏に行われた「第2回オランダ演奏旅行」では、9月2日のアムステルダム・コンセルトヘボウでの公演を含め、ドイツとオランダの5ヶ所で演奏されました。また同年11月に初めて参加した「第7回全日本大学オーケストラ大会」(東京芸術劇場大ホール)でも演奏しています。



ルートヴィヒ・ヴァン・ベートーヴェン 交響曲第5番 ハ短調 作品67「運命」 Ludwig van Beethoven Symphony No. 5 in C-minor op.67

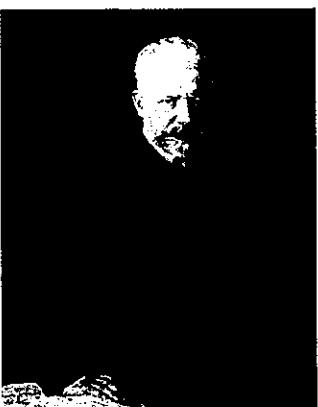
おそらく、オーケストラで演奏される交響曲の中でもっとも有名な作品は、このベートーヴェンの「運命交響曲」でしょう。"ジャジャジャジャーン"と日本語で表現される冒頭部分は、誰もが知るクラシック音楽の代名詞と言える存在です。欧文では"ta-ta-ta-taa"となるこの動機は、作品全体の基礎になっているもので、この4つの音だけで全曲が組み立てられていると言ってもよいほどなのです。

「運命」というタイトルは、ベートーヴェン自身が「このように運命は扉を叩く」と語ったというエピソードに由来するのですが、これはおそらく作り話だと言われています。

ルートヴィヒ・ヴァン・ベートーヴェン(1770-1827)の音楽と言えば、ダイナミックでたたみかけるような響きを思い起こされる方も多いでしょう。『第5番』はれんが造りのように素材を積み上げてゆく、この時期のベートーヴェンの作風が最もよくあらわされた作品です。1807年に着手され、1808年(38歳)の早い時期に完成しました。この年の12月22日に『第6番「田園」』と同じ演奏会で初演されています。当時、ベートーヴェンは故郷のボンからウィーンへと移り住み、充実した活動を繰り広げていました。この2曲の交響曲は兄弟のような関係で、音楽の組み立て方に共通点を持っています。

〈第1楽章〉はこの"ジャジャジャジャーン"という運命の動機が幾度となく繰り返され、がっしりとした建築物のような音楽が出来上がります。比較的穏やかな〈第2楽章〉でも、巧妙に配置された運命の動機が絶妙な効果をあげて、変奏曲を組み立てています。〈第3楽章〉はチェロとコントラバスの低弦が不気味にうごめいて始まります。その後登場するホルンは"ジャジャジャジャーン"の運命の動機が少し形を変えたものです。第4楽章へと切れ目なく演奏される橋渡しの部分ではエネルギーが蓄えられ、〈第4楽章〉冒頭での爆発がクライマックスのスタートです。全曲の頂点を最終楽章に持ってきたのはベートーヴェンの新機軸なのですが、この《第5番》では圧倒的な効果を上げ、闘争から勝利へ驚愕のフィナーレを築き上げるのです。

思いのほか少ないように思いますが、定期演奏会に限れば、これまで6回演奏されてきました。第3回(1952.5.24 大阪市中央公会堂)、第16回(1959.5.29 大阪・朝日会館)、第28回(1965.12.6 大阪・毎日ホール)、第34回(1969.12.4 大阪・毎日ホール)、第42回(1973.12.13 大阪・毎日ホール)、第53回(1979.6.17 神戸文化ホール大)となります。最後に定期演奏会で取り上げられたのは30年以上前のことでした。1980年代以降はメンバーも増え、大編成の作品が選曲される機会が増えたことで、ベートーヴェンの作品を取り上げることが、少なくなっていました。



ピョートル・イリイチ・チャイコフスキ 交響曲第5番 ハ短調 作品64 Peter Iljitsch Tchaikovsky Symphony No. 5 in E-minor op.64

ピョートル・イリイチ・チャイコフスキ(1840-1893)は19世紀のロシアを代表する作曲家です。彼の音楽はロシアに固有の息の長い旋律と、感情の振幅の広さが特色と言えますが、当時のロシアでチャイコフスキの音楽は、洗練された作風を持ち西欧的であると言われていました。

『交響曲第5番 ハ短調』は1888年(48歳)に短期間で書かれたとされてきましたが、最新の研究ではある程度の期間をかけて完成されたとされます。熟練した語り口は雄弁で、細部にまで書き込まれた完成度の高い作品になりました。ただ作曲者自身は時間が経つと仕上がりに不満を持ったようで、「大きさで、作り物のようだ」と、パトロンであったメック夫人に手紙を書き送っています。初演当時、この作品は演奏者にも聴衆にも、あまり

評判は良くなかったのですが、どうやらその原因は、チャイコフスキの未熟な指揮にあったようです。彼の指揮はあまりにも弱々しくて、作品が向かうべき道を示せなかつたと伝えられます。

4つの楽章で構成されます。〈第1楽章〉の重々しい序奏の響きからは、ロシアの広大な大地の情景が見えてくるようです。クラリネットが主導する引きするようなメロディは「運命の動機」と呼ばれ、全楽章で、様々な形となって登場します。主部に入って、楽譜の指示通り「活気を持った」音楽が燃え盛る情熱と共に奏でられます。〈第2楽章〉は、何といっても、ホルンが歌う朗々たるメロディが心に響きます。大河が押し寄せるように圧倒的な音の塊が、我々の心をつかんで放しません。〈第3楽章〉はワルツのやさしい響きの中に、ほのかに暗さが薫ります。一服の清涼剤のようでいて、どこかに不安な気持ちが残っているのです。〈第4楽章〉は「運命の動機」が民族的な数々の舞曲と共に、人生に翻弄されるかのように様々に扱われます。さらに、最後は勝利を讃える勇猛な楽想へと姿を変えて、輝かしいフィナーレとなります。作曲者は本意ではないかもしれません、この力技こそがチャイコフスキの音楽の持つ魅力なのです。

これまで7回も定期演奏会で演奏されてきました。交響曲としては、ドヴォルザーク《交響曲第8番》(9回)、ベートーヴェン《交響曲第3番「英雄」》(8回)に次ぐ演奏会数で、ブラームス《交響曲第1番》、ドヴォルザーク《交響曲第9番「新世界より」》と同数を記録しています。年代順に列記すると、第8回(1954.12.20 大阪市中央公会堂)、第19回(1960.11.26 大阪・朝日会館)、第52回(1978.12.14 神戸国際会館)、第60回(1982.12.22 神戸文化ホール大)、第84回(1994.12.18 神戸文化ホール大)、第94回(2000.1.16 尼崎アルカイックホール)、第112回(2009.2.11 尼崎アルカイックホール)となります。

小味渕 彦之 (音楽学・音楽評論／平成7年 文学部卒 部長・打楽器)



関西学院交響楽団 定期演奏会 演奏曲目一覧表 [第1回～第62回]

作成：昭和55年 法学部卒 小田英夫 チェック

| 回数 | 開催日 | 開催場所 | 首席指揮者 | 副指揮者 | 作曲家 | 曲名 | プログラム(前奏曲) | | プログラム(後奏曲) | | ゲスト(交響曲・管弦楽曲) |
|------|------------|------------|-------------|------|-----------|--|------------|--------------------------------------|--|----|---------------------------------------|
| | | | | | | | 曲名 | 曲名 | 曲名 | 曲名 | |
| 1 | 1951.5.5 | 大阪・中央公会堂 | 野村陽児 | | 豊田壽子 | Beethoven, Egmont Over. | 1 | Beethoven, Piano Con.No.3 | | | Beethoven, Sym.No.1 |
| 2 | 1951.12.1 | 大阪・中央公会堂 | 野村陽児 | | 山下喜市郎 | Rossini, Il barbiere Siviglia Over. | 2 | Beethoven, Piano Con.No.5 | | | Mozart, Sym.No.40 |
| 3 | 1952.5.24 | 大阪・中央公会堂 | 野村陽児 | | 遠上長太 | J.Strauss II, Die Fledermaus Over. | 3 | Mendelssohn, Violin Con. | | | Beethoven, Sym.No.5 |
| 4 | 1952.12.6 | 大阪・産経会館 | 野村陽児 | | 豊田壽子 | Mozart, Sym.No.35 "Haffner" | 4 | Grieg, Piano Con. | Tchaikovsky, Swan Lake Suite | | |
| 5 | 1953.5.9 | 大阪・中央公会堂 | 尾河原明二郎 | | 田中 啓 | Gluck, Iphigenie en Aulide Over. | 5 | Saint-Saens, Cello Con. | Sibelius, Finlandia | | Schubert, Sym.No.8 "Unfinished" |
| 6 | 1953.11.28 | 大阪・産経会館 | 尾河原明二郎 | | 吉川己代江 | Khachaturian, Gayane | 6 | Rachmaninov, Piano Con.No.2 | | | Dvorak, Sym.No.9 "From the New World" |
| 7 | 1954.5.29 | 大阪・中央公会堂 | 牧野泰宜 | | 西川尚子 | Auber, La Muette de Portici Over. | 7 | Mozart, Piano Con.No.23 | Bizet, L'Arlessienne, SuiteNo.2 | | Beethoven, Sym.No.8 |
| 8 | 1954.12.8 | 大阪・中央公会堂 | 牧野泰宜 | | 玉野嘉久 | Rossini, Il barbiere Siviglia Over. | 8 | Bruch, Violin Con. | | | Tchaikovsky, Sym.No.5 |
| 9 | 1955.6.4 | 神戸会員会館 | 牧野泰宜 | | 山崎良子 | Suppe, Poet and Peasant Over. | 9 | Beethoven, Piano Con.No.3 | Tchaikovsky, Capriccio Italian | | Haydn, Sym.No.101 "The Clock" |
| | 1955.6.5 | 大阪・中央公会堂 | | | | | | | | | |
| 10 | 1955.11.27 | 神戸会員会館 | 牧野泰宜 | 北沢恵一 | 安見泰子 | Wagner, Lohengrin, Prel. to ActIII | 10 | Gershwin, Rhapsody in Blue | Bizet, Carmen Suite No.2 | | Beethoven, Sym.No.6 "Pastral" |
| | 1955.12.4 | 大阪・中央公会堂 | | | | | | | | | |
| 11 | 1956.5.13 | 大阪・中央公会堂 | 西村順吉 | | 玉野嘉久 | Schubert, Rosamunde Over. | 11 | Beethoven, Violin Con. | | | Haydn, Sym.No.100 "Milatary" |
| 12 | 1957.6.1 | 大阪・朝日会館 | 須山雄二 | | 山田 忍 | Mozart, Cosi fan tutte Over. | 12 | Liszt, Piano Con. | Grieg, Peer Gynt Suite No.1 | | Beethoven, Sym.No.3 "Eroica" |
| 13 | 1957.11.18 | 産経会館 | 須山雄二 | | 安見泰子 | Beethoven, Coriolan Over. | 13 | Beethoven, Piano Con. No.1 | Tchaikovsky, Sleeping Beauty Suite | | Bizet, Sym.No.1 |
| 14 | 1958.5.11 | 大阪・朝日会館 | 野村陽児 | | 藤田 梢 | Handel, "Water Mus i c" Suite | 14 | Beethoven, Piano Con. No.5 | | | Dvorak, Sym.No.9 "From the New World" |
| 15 | 1958.11.22 | 大阪・中央公会堂 | 小川浩二郎 | | 君塚鏡子 | Beethoven, Egmont Over. | 15 | Mozart, Piano Con.No.26 "Coronation" | Liszt, Preludes | | Haydn, Sym.No.88 |
| 16 | 1959.5.29 | 大阪・朝日会館 | 小川浩二郎 | | 西村順吉 | J.Strauss, Die Fledermaus Over. | 16 | Mendelssohn, Violin Con. | | | Beethoven, Sym.No.5 |
| 17 | 1959.12.14 | 大阪・朝日会館 | 小川浩二郎 | | 辻 智美 | Boieldieu, Der Karif von Bagdad Over. | 17 | Grieg, Piano Con. | Khachaturian, Gayane | | Beethoven, Sym.No.8 |
| 18 | 1960.5.28 | 大阪・朝日会館 | 小川浩二郎 | | 石井勝子 | Tchaikovsky, "Swan Lake" Suite | 18 | Mozart, Violin Con.No.5 | | | Shostakovich, Sym.No.5 |
| 19 | 1960.11.26 | 大阪・朝日会館 | 小川浩二郎 | | 玉野嘉久 | Sibelius, "Finlandia" | 19 | Beethoven, Violin Con. | | | Tchaikovsky, Sym.No.5 |
| 20 | 1961.6.3 | 大阪・朝日会館 | 田中彰寛 | 小杉雅美 | 白流和子 | Beethoven, Egmont Over. | 20 | Vivaldi, "La primavera" "L'Autunno" | Chabrier, Espana Rhapsody | | Beethoven, Sym.No.6 "Pastral" |
| 21 | 1961.11.29 | 大阪・朝日会館 | 畠 道也 | | 新庄美沙子 | Saint-Saens, Danse macabre | 21 | Beethoven, Piano Con.No.5 | | | Mozart, Sym.No.36 "Linz" |
| 22 | 1962.6.1 | 大阪・朝日会館 | 畠 道也 | | 港 朱美 | J.Strauss II, Der Zigeunerbaron Over. | 22 | Liszt, Piano Con. | | | Beethoven, Sym.No.2 |
| 23 | 1962.12.3 | 大阪・毎日ホール | 畠 道也 | | 新庄美沙子 | Grieg Peer Gynt, Suite No.1 | 23 | Mozart, Piano Con.No.26 "Coronation" | | | Brahms, Sym.No.1 |
| 50th | 24 | 1963.12.2 | 大阪・毎日ホール | 畠 道也 | 三室堯・川崎英子他 | Gluck, Iphigenie en Aulide Over. | 24 | | | | Beethoven, Sym.No.9 "Choral" |
| | 25 | 1964.6.5 | 大阪・毎日ホール | 前堀達男 | 八角陽子 | Mozart, Le nozze di Figaro Over. | 25 | Beethoven, Piano Con.No.3 | | | Bizet, Sym.No.1 |
| | 26 | 1964.12.1 | 大阪・毎日ホール | 前堀達男 | 古武節子 | Mozart, Die Zauberflote Over. | 26 | Mozart, Violin Con.No.3 | | | Beethoven, Sym.No.3 "Eroica" |
| | 27 | 1965.6.4 | 大阪・毎日ホール | 前堀達男 | | Schubert, Sym.No.5 | 27 | | Dvorak, Slavonic Dances No.4 | | Haydn, Sym.No.101 "The Clock" |
| | 28 | 1965.12.6 | 大阪・毎日ホール | 前堀達男 | 酒井紀恵子 | Weber, Oberon Over. | 28 | Beethoven, Piano Con.No.4 | | | Beethoven, Sym.No.5 |
| | 29 | 1966.12.3 | 大阪・毎日ホール | 武藤俊介 | | Beethoven, Egmont Over. | 29 | | Beethoven, Sym.No.1 | | Dvorak, Sym.No.9 "From the New World" |
| | 30 | 1967.6.5 | 大阪・毎日ホール | 武藤俊介 | 御葉袋宣子 | Mozart, Le nozze di Figaro Over. | 30 | Grieg, Piano Con. | Grieg, Holberg Suite | | Haydn, Sym.No.100 "Milatary" |
| | 31 | 1967.12.1 | 大阪・毎日ホール | 武藤俊介 | 前川好正 | Mozart, Cosi fan tutte Over. | 31 | Beethoven, Violin Con. | | | Brahms, Sym.No.1 |
| | 32 | 1968.6.7 | 大阪・毎日ホール | 前川好正 | | Mendelssohn, Hebrides Over. | 32 | Haydn, Cello Con.No.2 | | | Beethoven, Sym.No.8 |
| | 33 | 1968.11.19 | 大阪・毎日ホール | 武藤俊介 | 前川好正 | Rossini, Il barbiere Siviglia Over. | 33 | | Mozart, Sym.No.31 "Paris" | | Beethoven, Sym.No.3 "Eroica" |
| | 34 | 1969.12.4 | 大阪・毎日ホール | 武藤俊介 | 外田政彌 | Wagner, Die Meistersinger Prel. | 34 | Mozart, Piano Con.No.26 "Coronation" | | | Beethoven, Sym.No.5 |
| | 35 | 1970.6.8 | 大阪・厚生年金(中) | 武藤俊介 | 大倉隆二・北村明男 | Beethoven, Egmont Over. | 35 | | Beethoven, Sym.No.1 | | Bizet, Sym.No.1 |
| | 36 | 1970.12.14 | 西宮市民会館 | 武藤俊介 | 大倉隆二 | Rossini, L'italiana in Algeri Over. | 36 | | Mozart, Divertimento No.1 | | Dvorak, Sym.No.8 |
| | 37 | 1971.6.7 | 大阪・厚生年金(中) | 武藤俊介 | 北村明男 | Flotow, Martha Over. | 37 | | Schubert, Sym.No.8 "Unfinished" | | Beethoven, Sym.No.8 |
| | 38 | 1971.12.11 | 大阪・毎日ホール | 武藤俊介 | 北村明男 | Beethoven, The Ruins of Athens Over. | 38 | Mendelssohn, Violin Con. | | | Beethoven, Sym.No.3 "Eroica" |
| | 39 | 1972.6.7 | 大阪・厚生年金(中) | 畠 道也 | 里井和之 | Mozart, Die Entfurung aus dem Serail Over. | 39 | | Schubert, Sym.No.5 | | Dvorak, Sym.No.9 |
| | 40 | 1972.12.14 | 大阪・厚生年金(大) | 畠 道也 | 里井和之 | Beethoven, Egmont Over. | 40 | | | | Brahms, Sym.No.1 |
| | 41 | 1973.6.9 | 大阪・厚生年金(中) | 畠 道也 | 衣川 光 | Weber, Freischut z Over. | 41 | | | | Beethoven, Sym.No.1 |
| 60th | 42 | 1973.12.13 | 大阪・毎日ホール | 畠 道也 | 衣川 光 | Schubert, Rosamunde Over. | 42 | | Schubert, Sym.No.6 | | Beethoven, Sym.No.5 |
| | 43 | 1974.6.14 | 大阪・厚生年金(中) | 畠 道也 | 齊藤正和 | Gluck, Iphigenie en Aulide Over. | 43 | | Mozart, Sym.No.36 "Linz" | | Beethoven, Sym.No.8 |
| | 44 | 1974.12.18 | 大阪・厚生年金(大) | 畠 道也 | 齊藤正和 | Mozart, Die Zauberflote Over. | 44 | | Handel, Music for Royal Fireworks | | Beethoven, Sym.No.3 "Eroica" |
| | 45 | 1975.6.20 | 神戸文化ホール(大) | 畠 道也 | 楊 鴻泰 | Rossini, L'italiana in Algeri Over. | 45 | | Bizet, Sym.No.1 | | Mozart, Sym.No.40 |
| | 46 | 1975.12.22 | 大阪・厚生年金(中) | 畠 道也 | 楊 鴻泰 | Rossini, Il barbiere Siviglia Over. | 46 | | Lyadov, 8 Russian Folk songs | | Brahms, Sym.No.4 |
| | 47 | 1976.6.14 | 神戸文化ホール(大) | 畠 道也 | 井上 健 | Mozart, Sym.No.31 "Paris" | 47 | | Koyama K., Shinanobayashi for Orchestra | | Dvorak, Sym.No.8 |
| | 48 | 1976.12.19 | 神戸国際会館 | 畠 道也 | 井上 健 | I岡田晴美・木川田誠他 | 48 | | | | Beethoven, Sym.No.9 "Choral" |
| | 49 | 1977.6.15 | 神戸文化ホール(大) | 畠 道也 | 岩井啓次 | Berlioz, Marche hongroise | 49 | | Brahms, Haydn Variation | | Beethoven, Sym.No.1 |
| | 50 | 1977.12.18 | 神戸国際会館 | 畠 道也 | 岩井啓次 | Beethoven, Egmont Over. | 50 | | Toyama Y., Rhapsody for Orchestra | | Brahms, Sym.No.1 |
| | 51 | 1978.6.18 | 神戸文化ホール(大) | 畠 道也 | 高橋敏文 | Wagner, Die Meistersinger Prel. | 51 | | Schubert, Sym.No.5 | | Beethoven, Sym.No.8 |
| | 52 | 1978.12.14 | 神戸国際会館 | 畠 道也 | 高橋敏文 | Tchaikovsky, Slavonic March | 52 | | Faure, Pelleas et Melisande | | Tchaikovsky, Sym.No.5 |
| | 53 | 1979.6.17 | 神戸文化ホール(大) | 畠 道也 | 遠藤春生 | Sibelius, Finlandia | 53 | | Dvorak, Slavonic Dances No.6,7,16 | | Beethoven, Sym.No.5 |
| | 54 | 1979.12.18 | 森之宮・ビーティホール | 畠 道也 | 北村貢志 | Beethoven, Coriolan Over. | 54 | | Takada S., Ballad on a folk-song from Yamagata | | Sibelius, Sym.2 |
| | 55 | 1980.6.17 | 神戸文化ホール(大) | 畠 道也 | 北潤喜樹 | | 55 | | Schubert, Sym.No.8 "Unfinished" | | Dvorak, Sym.No.9 "From the New World" |
| | 56 | 1980.12.23 | 神戸国際会館 | 畠 道也 | 北潤喜樹 | Borodin, On the Steppes of Central Asia | 56 | Tchaikovsky, Violin Con. | | | Beethoven, Sym.No.3 "Eroica" |
| | 57 | 1981.6.14 | 神戸文化ホール(大) | 畠 道也 | 八橋 圭 | Beethoven, Egmont Over. | 57 | | Sibelius, Karelia Suite | | Beethoven, Sym.No.7 |
| | 58 | 1981.12.13 | 神戸文化ホール(大) | 畠 道也 | 八橋 圭 | Wagner, Rienzi Over. | 58 | | Bartok, Hungarian Pictures | | Brahms, Sym.No.1 |
| | 59 | 1982.6.29 | 神戸文化ホール(大) | 湯浅卓雄 | 守谷祐一 | Beethoven, Prometheus Over. | 59 | | Vaughan-Williams, English Folk Song Suite | | Dvorak, Sym.No.8 |
| | 60 | 1982.12.22 | 神戸文化ホール(大) | 湯浅卓雄 | 守谷祐一 | Gluck, Iphigenie en | | | | | |

| 回数 | 開催日 | 開催場所 | 首席指揮者 | 副指揮者 | 演奏者 | 序曲 | 曲目数 | ラフマニンoffensive | ラフマニン(交響曲/管弦楽曲) | メイン(交響曲/管弦楽曲) |
|-------|------------|-------------|-------------|-------|--|--|-----|--|--|---|
| 63 | 1984. 6.23 | 神戸文化ホール(大) | 堤 俊作 | 其浦宏幸 | Humperdinck, Hansel und Gretel Over. | 63 | | Falla, The Three Cornered Hat Suite No.2 | Beethoven, Sym.No.3 "Eroica" | |
| 64 | 1984.12.23 | 神戸文化ホール(大) | 湯浅卓雄 | 其浦宏幸 | Ravel, Menuet antique | 64 | | Tippett, Suite for the Birthday of Prince Charles | Brahms, Sym.No.4 | |
| 65 | 1985. 6.18 | 神戸文化ホール(大) | 堤 俊作 | 杉原 直 | Brahms, Academic Festival Over. | 65 | | Smetana, "Sarka" "Blanik" | Dvorak, Sym.No.9 "From the New World" | |
| 66 | 1985.12.19 | 神戸文化ホール(大) | 大友直人 | 杉原 直 | Brahms, Sym.No.3 | 66 | | Faure, Pelleas et Melisande | Respighi, Pini di Rome | |
| 67 | 1986. 6.15 | 尼崎アカイクホール | 大友直人 | 中村晃之 | Weber, Freischutze Over. | 67 | | Sibelius, Karelia Suite | Tchaikovsky, Sym.No.4 | |
| 68 | 1986.12.21 | 神戸文化ホール(大) | 湯浅卓雄 | 中村晃之 | 溝口満知子、三室堯他 | 68 | | Liszt, Preludes | Beethoven, Sym.No.9 "Choral" | |
| 69 | 1987.6.26 | 神戸文化ホール(大) | 佐渡 裕 | 吉田 徹 | Tchaikovsky, Romeo and Juliet Over. | 69 | | Schubert, Sym.No.8 "Unfinished" | Dvorak, Sym.No.8 | |
| 70 | 1987.12.22 | ザ・シフォニーホール | 湯浅卓雄 | 吉田 徹 | Beethoven, Fidelio Over. | 70 | | Poulenc, Les biches, suite d'orchestre | Tchaikovsky, Sym.No.6 "Pathetique" | |
| 71 | 1988. 6.21 | 西宮市民会館 アミティ | 大友直人 | 二瓶竜史 | Mendelssohn, Ruy Blas Over. | 71 | | Smetana, "Vltava" "From Bohemia's Wood and Fields" | Brahms, Sym.No.2 | |
| 72 | 1988.12.13 | 神戸文化ホール(大) | 湯浅卓雄 | 二瓶竜史 | Saint-Saens, Marche heroique | 72 | | Copland, "Rodeo" Suite | Prokofiev, Sym.No.7 | |
| 73 | 1989. 6.18 | 神戸文化ホール(大) | 現田茂夫 | 毛利秀明 | Herold, Zampa Over. | 73 | | Sibelius, Sym.7 | Beethoven, Sym.No.3 "Eroica" | |
| 74 | 1989.12.24 | 神戸文化ホール(大) | 湯浅卓雄 | 毛利秀明 | Delibes, From Ballet Suite "Coppelia" | 74 | | Mozart, Sym.No.29 | Mahler, Sym.No.1 | |
| 75 | 1990. 6.29 | 神戸文化ホール(大) | 岡田良機 | 稻田丈二 | Verdi, I Vespri siciliani Over. | 75 | | Debussy, Petite suite pour orchestre | Brahms, Sym.No.1 | |
| 76 | 1990.12.20 | 神戸文化ホール(大) | 湯浅卓雄 | 稻田丈二 | Wagner, Tannhauser Over. | 76 | | Khachaturian, Masquerade Suite | Sibelius, Sym.2 | |
| 77 | 1991. 7. 3 | 西宮市民会館 アミティ | 田中一嘉 | 久保秀影 | Dukas, L'apprenti sorcier | 77 | | Mendelssohn, From "Midsummer Night's Dream" | Dvorak, Sym.No.8 | |
| 78 | 1992. 1.14 | ザ・シフォニーホール | 現田茂夫 | 久保秀影 | R.Strauss, Don Juan | 78 | | Kabalevsky, The Comedians Suite | Prokofiev, Sym.No.5 | |
| 79 | 1992. 6.28 | 西宮市民会館 アミティ | 岡本和之 | 杉本 賢 | Akutagawa Y., Musica per Orchestra Sinfonica | 79 | | Grieg, Peer Gynt Suite No.1 | Nielsen, Sym.No.2 "The four Temperaments" | |
| 80th | 80 | 1993. 1.24 | 神戸文化ホール(大) | 現田茂夫 | 杉本 賢 | Tchaikovsky, Romeo and Juliet Over. | 80 | | Falla, The Three Cornered Hat Suite No.2 | Berlioz, Symphonie fantastique |
| | 81 | 1993. 6.25 | 西宮市民会館 アミティ | 田中一嘉 | 樋口 博 | Tchaikovsky, Capriccio Italian | 81 | | Tchaikovsky, Serenade for string orchestra | Brahms, Sym.No.4 |
| | 82 | 1993.12.10 | 尼崎アカイクホール | 現田茂夫 | 樋口 博 | Rossini, Il barbiere di Siviglia Over. | 82 | | Faure, Pelleas et Melisande | Shostakovich, Sym.No.5 |
| | 83 | 1994. 6.24 | 西宮市民会館 アミティ | 田中一嘉 | 本石智弘 | Glinka, Ruslan and Ludmira Over. | 83 | | Debussy, Petite suite pour orchestre | Schumann, Sym.No.2 |
| | 84 | 1994.12.18 | 神戸文化ホール(大) | 藏野雅彦 | 本石智弘 | Herold, Zampa Over. | 84 | | Gounod, Musique de ballet pour Faust | Tchaikovsky, Sym.No.5 |
| | 85 | 1995. 6.28 | 尼崎アカイクホール | 藤崎 凡 | 江崎純吉 | Bernstein, Candide Over. | 85 | | Delibes, "Silvia" Ballet suite | Dvorak, Sym.No.8 |
| | 86 | 1996. 1.24 | 尼崎アカイクホール | 田中一嘉 | 江崎純吉 | Dvorak, Carnival Over. | 86 | | Tchaikovsky, Nutcracker Suite | Rachmaninov, Sym.No.2 |
| | 87 | 1996. 6.29 | 尼崎アカイクホール | 竹本泰蔵 | 渡辺正樹 | Reiche, Trombone Concert.No.2 | 87 | | Sibelius, Pelleas et Melisande | Brahms, Sym.No.2 |
| | 88 | 1996.12.27 | 神戸文化ホール(大) | 閑谷弘志 | 渡辺正樹・家宇治賢 吳 信一 | Saint-Saens, Bacchanale from "Samson and Dalila" | 88 | | Honegger, Pacific 231 | Tchaikovsky, Sym.No.6 "Pathetique" |
| | 89 | 1997. 6.14 | 西宮市民会館 アミティ | | 家宇治賢 | Beethoven, Fidelio Over. | 89 | | Haydn, Sym.No.100 "Military" | Nielsen, Sym.No.3 "Sinfonia espansiva" |
| | 90 | 1998. 1.23 | 尼崎アカイクホール | 手塚幸紀 | 家宇治賢 | Rossini, Guillaume Tell Over. | 90 | | Tchaikovsky, Sleeping Beauty Suite | Mahler, Sym.No.1 |
| | 91 | 1998. 6.24 | 尼崎アカイクホール | 田中一嘉 | 家宇治賢 | Tchaikovsky, Capriccio Italian | 91 | | Respighi, Antiche danze, et arie, Suite No.3 | Brahms, Sym.No.1 |
| | 92 | 1999. 1.10 | 尼崎アカイクホール | 田中一嘉 | 家宇治賢 | J.Strauss II, Die Fledermaus Over. | 92 | | Khachaturian, Masquerade Suite | Bruckner, Sym.No.4 "Romantische" |
| | 93 | 1999. 6.25 | 尼崎アカイクホール | 閑谷弘志 | 吉田周平 | Schubert, Rosamunde Over. | 93 | | Liszt, Preludes | Dvorak, Sym.No.8 |
| | 94 | 2000. 1.16 | 尼崎アカイクホール | 金 洋才 | 吉田周平 | Sibelius, Finlandia | 94 | | Delibes, "Silvia" Ballet suite | Tchaikovsky, Sym.No.5 |
| | 95 | 2000. 6.28 | 尼崎アカイクホール | 藏野雅彦 | 井手口彰典 | Nielsen, Helios Over. | 95 | | Borodin, Over and Polovstian Dances from Prince Igor | Brahms, Sym.No.2 |
| | 96 | 2001. 1.14 | 尼崎アカイクホール | 藏野雅彦 | 井手口彰典 | Saint-Saens, Danse macabre | 96 | | Massenet, Scenes Alsaciennes, Suite No.3 | Rachmaninov, Sym.No.3 |
| | 97 | 2001. 6.27 | 尼崎アカイクホール | 田中一嘉 | 神前 喬 | J.Strauss II, Die Fledermaus Over. | 97 | | Glazunov, Scenes de Ballet Suite | Sibelius, Sym.2 |
| | 98 | 2002. 1.19 | 尼崎アカイクホール | 田中一嘉 | 神前 喬 | Saint-Saens, Bacchanale from "Samson and Dalila" | 98 | | Prokofiev, Romeo and Juliet Suite | Bruckner, Sym.No.5 |
| | 99 | 2002. 6.30 | 尼崎アカイクホール | 藏野雅彦 | 津田卓哉 | Mussorgsky, Night on the Bare Mountain | 99 | | Sibelius, Karelia Suite | Dvorak, Sym.No.7 |
| 90th | 100 | 2003. 1.25 | ザ・シフォニーホール | 下野竜也 | 津田卓哉 | Brahms, Academic Festival Over. | 100 | | Brahms, Haydn Variation | Rachmaninov, Sym.No.2 |
| | 101 | 2003. 6.29 | 尼崎アカイクホール | 田中一嘉 | 福津真理子 | Rossini, Il barbiere di Siviglia Over. | 101 | | Borodin, Sym.No.3 "Unfinished" | Tchaikovsky, Sym.No.6 "Pathetique" |
| | 102 | 2004. 1.17 | 尼崎アカイクホール | 田中一嘉 | 福津真理子 | Weber, Oberon Over. | 102 | | Liszt, Preludes | Shostakovich, Sym.No.5 |
| | 103 | 2004. 6.12 | 尼崎アカイクホール | 船曳圭一郎 | 井狩友子 | Berlioz, Le carnaval romain Over. | 103 | | Delibes, "Silvia" Ballet suite | Dvorak, Sym.No.8 |
| | 104 | 2005. 2.11 | 尼崎アカイクホール | 船曳圭一郎 | 井狩友子 | Borodin, Prince Igor Over. | 104 | | Tchaikovsky, Romeo and Juliet Over. | Elgar, Sym.No.1 |
| | 105 | 2005. 6.19 | 尼崎アカイクホール | 小田野宏之 | 松川菜織美 | Suppe, Light Cavalry Over. | 105 | | Bizet, Carmen Suite No.2 | Brahms, Sym.No.3 |
| | 106 | 2005.12.23 | 伊丹・いたみホール | 寺岡清高 | 松川菜織美 | Humperdinck, Hansel und Gretel Over. | 106 | | Tchaikovsky, Swan Lake Suite | Tchaikovsky, Sym.No.4 |
| | 107 | 2006. 6.25 | 尼崎アカイクホール | 井村誠貴 | 平田將朋 | J.Strauss II, Die Fledermaus Over. | 107 | | Khachaturian, Masquerade Suite | Sibelius, Sym.2 |
| | 108 | 2007. 2.12 | 尼崎アカイクホール | 井村誠貴 | 平田將朋 | Rimsky-Korsakov, The Tsar's Bride Over. | 108 | | Borodin, Sym.No.2 | Prokofiev, Sym.No.7 |
| | 109 | 2007. 6.24 | 伊丹・いたみホール | 澤 和樹 | 渡辺夏希 | Beethoven, Egmont Over. | 109 | | Dvorak, Slavonic Dances No.1, 4, 7, 8 | Dvorak, Sym.No.9 "From the New World" |
| | 110 | 2008. 2.11 | 伊丹・いたみホール | 寺岡清高 | 渡辺夏希 | Sibelius, Finlandia | 110 | Debussy, Prelude a "L'apres-midi d'un faune" | Debussy, Petite suite pour orchestre | Rachmaninov, Sym.No.2 |
| | 111 | 2008.7. 6 | 尼崎アカイクホール | 牧村邦彦 | 谷 めぐみ | Beethoven, Coriolan Over. | 111 | | Grieg, Peer Gynt Suite No.1 | Kalinnikov, Sym.No.1 |
| | 112 | 2009. 2.11 | 尼崎アカイクホール | 中井章徳 | 谷 めぐみ | Borodin, Prince Igor Over. | 112 | | Delibes, "Silvia" Ballet suite | Tchaikovsky, Sym.No.5 |
| | 113 | 2009. 6.21 | 尼崎アカイクホール | 横島勝人 | 北田未来 | Mendelssohn, Hebrides Over. | 113 | | Faure, Dolly | Dvorak, Sym.No.8 |
| | 114 | 2010. 2.14 | 尼崎アカイクホール | 横島勝人 | 北田未来 | Smetana, "Sarka" | 114 | | Tchaikovsky, Sleeping Beauty Suite | Tchaikovsky, Sym.No.1 "Winter Reveries" |
| | 115 | 2010. 7. 4 | 伊丹・いたみホール | 大河内雅彦 | 浦 優介 | Beethoven, Fidelio Over. | 115 | | Tchaikovsky, Romeo and Juliet Over. | Sibelius, Sym.2 |
| | 116 | 2011. 2.13 | 兵庫芸文ホール(大) | 中井章徳 | 浦 優介 | Nicolai, The Merry Wives of Windsor Over. | 116 | | Tchaikovsky, Nutcracker Suite | Shostakovich, Sym.No.5 |
| | 117 | 2011. 7. 3 | 尼崎アカイクホール | 船曳圭一郎 | 仲谷太宏 | Weber, Oberon Over. | 117 | | Dvorak, Suite in A-major, Op.98a, American | Dvorak, Sym.No.7 |
| | 118 | 2012. 2.22 | 兵庫芸文ホール(大) | 伊藤 翔 | 仲谷太宏 | Sibelius, Finlandia | 118 | | Mozart, Sym.No.38 "Prague" | Tchaikovsky, Sym.No.6 "Pathetique" |
| | 119 | 2012. 7. 1 | あましんアカイクホール | 船橋洋介 | 矢間明日香 | Mendelssohn, A Midsummer Night's Dream Over. | 119 | | Bizet, Carmen Suite No.1 & No.2 | Franck, Sym. |
| | 120 | 2013. 2.11 | 兵庫芸文ホール(大) | 横島勝人 | 矢間明日香 | Rimsky-Korsakov, The Tsar's Bride Over. | 120 | | Tchaikovsky, 1812 Over. | Tchaikovsky, Sym.No.4 |
| | 121 | 2013. 6.30 | あましんアカイクホール | 中井章徳 | 越智雄太 | Schubert, Rosamunde Over. | 121 | | Liszt, Preludes | Brahms, Sym.No.1 |
| 100th | 122 | 2014. 2.18 | 兵庫芸文ホール(大) | 寺岡清高 | 越智雄太 長原幸太 | Brahms, Academic Festival Over. | 122 | Mendelssohn, Violin Concert | | Bruckner, Sym.No.4 "Romantische" |



100 関オケ歴史秘話

ストリングバンドの誕生 1913年(大正2年)

関西学院交響楽団の属する文化総部は1912年に学院内に専門部学生会が創設されたときに宗教部、学芸部、運動部(後の体育会)と共に発足した社交部にさかのぼる。その後1917年(大正6年)、神学部と分離して高等学部学生会として独立した頃から音楽部としての色彩が鮮明になり、翌年の1918年(大正7年)1月には最初の慈善音楽大会が神戸青年会館で開催されるに至った。

関西学院が上ヶ原へ移転した1929年(昭和4年)に文芸部が独立して社交部は音楽部と改称されることになったが、そのときにはグリー・クラブ、ハーモニカ・クラブ、マンドリン・クラブなどと共にオーケストラ・クラブとして地位を確立していた。

1912年の社交部発足のわずか1年後(1913年)に誕生した“ストリングバンド”はその命名から少数の仲間を集めた弦楽アンサンブルであったと想像される。このストリングバンドを誕生させてオーケストラ・クラブへ育て上げたのは1919年(大正8年)高商卒の故リヒアルト・K・ライフ(今村 清)氏である。



リヒアルト・K・ライフ(今村 清)氏

— 眼とすれば —

リヒアルト・K・ライフ 関西学院交響楽団創設者 RICHARD・K・REIFF

今のところに移り住んでから25年になるが、この間、家人が捨てた塵の中から桃の木が実生して、あとさき10年ばかり一家を楽しませてくれた事があった。枝は年々のびて可成りな大樹となって百果に近い収穫の味は、確かに白桃であった。これという手入れもせず肥やしもやらなかった普通の庭土に、そのおしみなき美味だけが私には不思議であった。戦後はじめて我が家地主に会って、彼が代々桃園の経営者であったことを聞いて、永年の謎がようやくとけた。無心に捨てた一つの実はきせずして所を得ていたのであった。

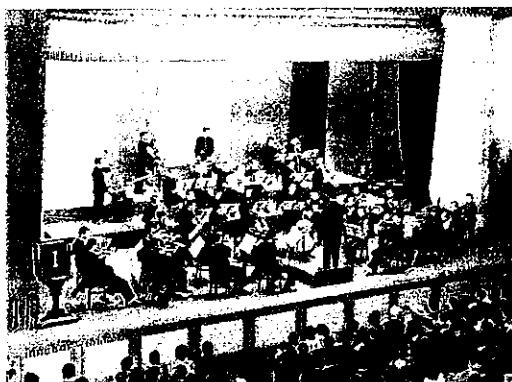
オーケストラ発祥のときは十個に満たない桃の実であった。我々が青春の思いのすてばに学院の校庭でささやかなアンサンブルを始めたのはまだ昨日のようであったのに……今夏、田中彰寛先生やマネージャーの御訪問を受け、星霜すでに50年と告げられ、時の流れに驚いたのであった。爾来、先生方や先輩後輩のご努力はさることながら、一方、桃の実の置かれた学院の土壤の良さも無視することができない。歴史と伝統どうまし西風と、そこには白髪のニュートン博士、赭顔のベーツ院長、鼻眼鏡の岡島女史のおもかげを遥かに思ひ浮かべられる。

今日の学生音楽会の聴衆の中には父兄も居られよう。先輩後輩、恋人もまじえて一堂にもりあがるかぐわしい香氣はまことに好ましく、眼つぶれば、いつもは真一文字にむすんでいるペートーヴェンのマスクの口許も、その一角が少しくほころんでいるようにも幻想される。

第9交響曲、音楽と文学の境界、むかしからいろいろ言われている。しかし、これに限らず音楽を聴聞することは玉虫色をきくことである。雲の影、風の流れにも、青の勝つとき、紫の勝つとき、紅の勝つときがあり、奏者のいぶき、聴者のうけいれ、おのがじしことなつてはいても、玉虫はとわに玉虫であつてよい。かくてこそ音楽は永遠に若く、青い地球の上にびまんしてゆくのである。

DEC. 3. 1963 於六甲

注:このメッセージは1963年12月2日毎日ホールで開催された創部50周年記念・第24回定期演奏会プログラムに寄稿されたK・ライフ氏のメッセージを転載しました



昭和15年6月12日 紀元二千六百年記念音楽會
主催 関西学院學生會 於 大阪朝日會館
オーケストラ・クラブ演奏
シントラウス カイザーワルツ
ロッシーニ セビリヤの理髪師
※このとき、山田耕作氏が特別に自作の新校歌の指揮をした



昭和15年11月2日 日・独・伊三国同盟成立祝賀音楽會
主催 関西学院學生會音楽部
後援 日伊文化協会 獨逸文化研究所
於 大阪朝日會館 指揮 島村圭蔵
オーケストラ・クラブ演奏
ペートーヴェン 交響曲第5番

学徒出陣・最後の演奏会

「運命の扉を叩くだけで第二樂章以下を残して、我々は12月戦場へと学院を去った」

昭和18年10月19日、異常な雰囲気と興奮に満ちた大手前の軍人会館の割れるような拍手を浴びながら、私は指揮棒をしっかりと握りしめ、これが伝統ある関オケの終止符かと思いつつステージの指揮台に歩みだしていた。

その年、戦前の関オケ全盛時代を築いた先輩たちを送り出し、メンバーを再編中の我々に未成年の数人を残して全員先輩の後を追って銃を手にすることを余儀なくされた。世にいわゆる「学徒出陣」である。

詩の朗読と共に始まった「学徒出陣壮行会」と名づけられた最後の演奏会の曲に、陸海空の軍歌と共にこの曲しかないとと思った第5「運命」を選んだ。しかし、練習不足のぶつけ本番の演奏は皆の思いと交わって誠に悲愴なものであったが、私は遮二無二棒を振り、第一樂章の終わりと共に起きた拍手の渦の中に我々の最後の演奏会は終わった。運命の扉を叩くだけで第二樂章以下を残して、我々は12月戦場へと学院を去った。

昭和20年8月、戦いは終わった。終戦の翌年復員してきた仲間の手によって、関オケは再びよみがえった。そして、学院挙げての応援のもとに再生の第一回リサイタルが行われることになったが、まだ食糧事情が極度に悪く混沌たる世情のあの時代に再開にこぎつけた指揮者の有本、コンマスの遠上の両君を中心としたその時の団員の努力に対し今もなお深い感銘と感謝の念をもっている。しかし、戦前戦後の感激を共にした両君はもうこの世にいない。戦後第一回の曲に私は「運命」のあとは「田園」だと強く主張し、戦前でもなし得なかった「田園」の初演となった。この演奏も皆の意氣込みだけは大きかったが、何とかやり終えたことが不思議なくらいであった。ただ、皆の心の中にあったのは“前回は終わりであり、今回は始まりである”ということで、あの時代に…という社会的意義が大きく、又皆でやれた!という満足感が大きくお互いの中に残った。私も幸い生還してOBとして参加し、嵐のあのホルンのさわりを諸々の思いを込めて高らかに吹き上げた。しかし、最後の演奏を共にした仲間のうち戦場で果てた友を想い、こみあげる悲しみを抑えることが出来なかった。

歴史には時として過酷な時代があるが、その歴史があつて今日の関オケがあるということをどうか忘れないでほしい。

昭和19年 法学部卒 大東 謙一 指揮・ホルン

昭和十八年十月十九日 出陣學徒ニ音樂ヲ捧ゲ

學徒出陣壯行會（戦前最後の演奏会）

主催：関西学院報國團文化部 後援：関西学院報國團

於：大阪軍人會館 指揮：大東謙一

ペートーヴェン 交響曲第5番「運命」第1樂章

行進曲集：航空決戦の歌 大東亜陸軍の歌 大東亜戦争の歌

愛國行進曲 軍艦マーチ

出陣學徒ニ音樂ヲ捧ゲ

學徒出陣壯行會

入

場

券

昭和十八年十月十九日十八時開演

於 大阪軍人會館

(音報發令ノ際ハ中止)

主催 関西学院報國團文化部

後援 関西学院報國團

行進曲集



関西学院報國團文化部音楽科管弦楽班の当時のメンバー
(昭和16年秋から17年3月頃までのもの)

文化総部の挨拶・戦後最初の演奏会

文化総部の挨拶

「終戦後最初の学院音楽部の演奏会を此處に開く事が出来ました。種々なる困難の為に現在になりましたが何卒御諒承下さい。日本学生界に於ける当部の光輝ある歴史をうけて新たなる理想の光を求めて再出発致しました。何卒諸兄のご指導と御援助をお願いします。」

昭和21年(1946)6月24日 関西学院大学文化祭 定期演奏会

主催：関西学院学生会 於：大阪毎日会館(旧大手前国民會館)

指揮：有本昌平

管弦楽部演奏

ペートーヴェン 交響曲第6番「田園」

オーケストラ部

有本昌平

それは人間のロマンである。

新しい光を心に求めて私達は行こう。我部は出発した。

多き困難があったが、絶えざる心の泉が我々をして此處で来らしめた。

確かに新しい光が“今”は必要だ。我々の為に!!

創部90周年記念誌より転載

佐渡さんとの思い出

「おれな、アメリカ行くやろ。来年の話はやっぱり断らないかん。
悪いなあ。来年のこと約束してたやろ。穴あくけど、大丈夫かな。」

今をときめく佐渡裕さんが関学オーケストラを振ってくれたのは私が部長をしていた1987年の春の演奏会でした。豪快な指揮とともに、その人柄に触れる事ができた事は今ではとても大切な思い出です。まさかその当時は現在のご活躍を想像もできませんでした。彼の私たちとのつきあい方はまさに兄さんのような感じでした。

佐渡さんがタングルウッドの音楽祭でバーンスタインに認められ、師事をする事になった前後の事はとてもよく覚えています。だいたい指揮者の先生とは1年とか2年先までのお願いをしていたので、佐渡さんにはその翌年のお願いも大枠では了解はつけていました。先生がバーンスタインに認められ、渡米される事が決まった経緯は当然知っていたので、次の指揮者の先生を考えなくてはならないと総務部長だった採田さんと話していました。

そんなある日、「多次、話しがあるねん。俺謝らないかん。」と先生。一体何事かと思ったら、「おれな、アメリカ行くやろ。来年の話はやっぱり断らないかん。悪いなあ。来年のこと約束してたやろ。穴あくけど、大丈夫かな。」と言われて、私は本当にいい先生に巡り会えたなあと思いました。私は「先生、そんな事を気にされていたのですか。一回でも先生に振ってもらって、お会いできて部員一同嬉しかったです。これから先生が世界へ羽ばたかれるまでに少しだけでも、おつきあいで嬉しかったです。私たちの事をここまで心配してくれてありがとうございます。後のこと御心配なく、絶対に何とかしますから。」と答えました。佐渡さんは「そういうてくれるは安心して行けるな。ありがとう。」とおっしゃいました。

演奏会も近づいて最後の練習か何かの時にお家までお送りしたとき、先生が採田さんと私に「今日は俺につきあってくれよ。アメリカ行ったアホな夜更かしもできんからなあ。」ということで、大阪城公園で夜遅くまでどうでもいいような事を結構しゃべって、それから近くのラーメン屋でラーメンを食べました。「うまいなあ。うまいなあ。夜更かしは楽しいなあ。」と嬉しそうにラーメンを食べている姿はとても微笑ましいものでした。

何かの雑誌のインタビューで下積み時代に学生オーケストラを指揮したのも良い思い出だったし、ギャラも本当に嬉しかったとしゃべっておられました。

とてもすばらしいお兄さんのような感じだった佐渡さんの笑顔を忘れません。

昭和63年 経済学部卒 多次貴志 部長・トロンボーン



「本気で音楽しようぜ!」と佐渡先生らしい言葉。
諸面にもらった佐渡さんのサイン



第69回定期演奏会
1987年6月26日 神戸文化ホール(大)
“熱血・佐渡 裕”のドボルザク第8番

佐渡さんの客演2回目は幻となってしまいましたが、指揮者が変わった後も佐渡さんの責任感から、合宿にもボランティアで来てくださり指導して頂いたのを懐かしく覚えています。合宿では同じ部屋で夜な夜なしゃべりまくり朝食に寝坊し、みんなの前で佐渡さんと一緒に謝ったのを思い出します。

平成1年 商学部卒 採田 賢志 部長・コントラバス

1982年 トロンボーンパートが復活

モーツアルトやベートーヴェンをいつでもできるように、団員がいると選曲に制約が生じてしまうという理由で、トロンボーンパートは何十年も他大学のオケや吹奏楽部からのエキストラに頼っていました。しかし、オケの大所帯化と、この年から定期演奏会の指揮にプロの指揮者を呼び始め、今後難曲にも挑戦していくという『時代の要請』から、1982年にトロンボーンパートが復活しました。

今となってはそんな『復活』のいきさつを知る人も少なくなりましたが、1回生たった2人で再スタートしたトロンボーンパートは、31年を経た現在まで途切れることなく綿々とその歴史は紡がれています。

平成1年 法学部卒 八木 誠 トロンボーン

親子で関オケ

不思議な縁で、娘が同じフルートパート3年生に在籍中です。
親の4年生最後の定期演奏会が第62回。
そしてこのままいけば、娘の最後の定期演奏会が第124回。
親子でダブルスコア達成するのが楽しみです♪

昭和59年 経済学部卒 牧 宏行 フルート

親子で関オケ夫婦

娘が関オケに入団。
(それに背中を押されるように夫婦で楽器を再開)
娘は卒業後、関オケの一学年上の先輩と結婚。
まさか、親子2代で関オケ夫婦になるとは、J！J!!J!!!

昭和55年 文学部卒 柳原順子(旧姓:新谷) クラリネット

1995年のこと

前年12月に先輩方が卒団する定期演奏会を終え、年明けからはいよいよ僕らの代を音楽面でのトップとする体制が始まりました。その矢先、阪神淡路大震災が起き、関西学院も震度7の激震に見舞われました。

100名を超す団員の多くが阪神以西に住んでいたため、大阪メンバーによる懸命な安否確認が行われました。被災地への連絡もままならない中、昼夜問わず電話合戦。5日間ほどかかったでしょうか、倒壊した家屋の下から助け出されるなど命からがらの思いをした者もいましたが、それでも全員の無事が確認できました。

ただそれは登録された団員の無事であって、亡くなった関学生15名の中には、僕らの同期でしたが一回生で退団してしまったトランペットの友人も含まれていました。辞めた後も仲良くしていた僕らには大きなショックでした。3月18日、中央講堂で行われた学院追悼礼拝では献奏を申し出、その日のためにゆっくりとした曲調の弦楽合奏へアレンジした校歌を、献花に際して演奏させてもらいました。参列者が退場した後、「みなさんもどうぞ」と職員に促され、そこで初めて振り返って咲めた壇上に並ぶ遺影達。その一つにはにかんだ表情で写った友人を見た僕らは、涙を堪え切れず、みなボロボロ泣きながら花を手向かたのでした。

前半期の予定はそれぞれに変更を余儀なくされました。春の定期演奏会定番の会場であった西宮市民会館の使用停止、元ベルリン・フィル団員W.テーリヒエン氏との自作『ティンパニ協奏曲』共演の中止、定演曲目の変更。それらを練習再開までに検討し、代案に向けて動きました。そして予定を2週間ほど遅らせた3月下旬、千刈キャンプ場での春合宿から活動を再開したのでした。

相当な議論を重ねて決意したドイツ演奏旅行。その中止はとても残念なことでした。中でも演奏旅行スタッフ陣の落胆振りは大きなものでした。関オケ伝統の夏の演奏旅行を、卒業の年に国内でさえ出来ないものと諦めたのですが、しかしスタッフは企画の立て直しに奔走し、学院同窓会富山支部の協力を得て実現してくれました。短期間での手配のために「一般公演」と称する春の定期演奏会の再演こそ叶いませんでしたが、小学校訪問などで演奏する曲を集め、「震災チャリティーコンサート」として富山公演を行いました。

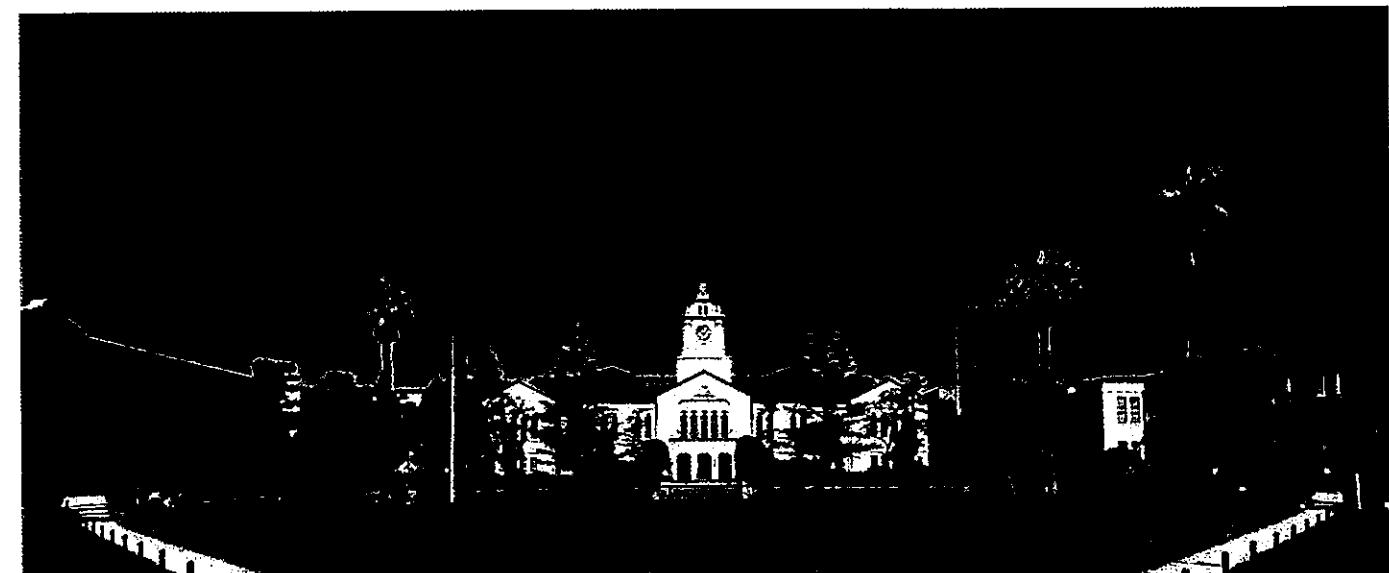
後半期にはインフラも生活もある程度落ち着き、例年の関オケの軌道に乗ることが出来ました。

年が明けて1月17日、震災1周年を迎えた学院ではその日、小さな白いリボンが配られ、胸や腕、みな思い思いにそれを身に付けて祈りの日を過ごしました。オケでは通常の練習があり、終礼の後、『バッハ／G線上のアリア』を弦楽器全員で演奏して一分間の黙祷を行いました。いつもは音で溢れる練習場に無音の時間が流れ、その静寂には幾人かのすすり泣きだけが聞こえていました。そうして僕らは7日後に卒団の演奏会を迎えたのでした。

ところでこう並べて書いてしまうと暗い一年であったかと思われるでしょうが、そうでもありませんでした。悲しい場面こそありましたが、普段はありふれた学生の日々を楽しんでいました。笑って走ってふざけ合い、酔って語って喧嘩をし、歌って踊って恋もして。記憶にある上ヶ原がいつも青空であるように、思い出される1995年の音練にも、やはり変わらぬ関オケの音が響いていました。

ただ一つ違っていたとすれば、扉を開けるとそこに仲間がいて楽器を弾いている、そうした日常が幸せだと気づかされることの多い年であったように思います。

平成8年 経済学部卒 江島 純吉 指揮・打楽器



祝！第100回記念定期演奏会

2001年9月11日。アメリカ同時多発テロ事件が起ったまさにその日、関オケ・3回生だった私たちは、夏合宿中の「美方パレス」のテレビで史上最悪のニュースを見ていきました。その年の秋に始まった就職活動が、当時の大学生にとって過酷なものであったことは言うまでもありません。

テロ、不況、就職難。閉塞感漂う時代に青春のピークを迎えてしまった、なんとタイミングの悪い私たち…。

私たちは、まさに「ロスジェネ」と真ん中の世代です。ですが、この歴史ある関西学院交響楽団の記念すべき第100回定期演奏会を、一番上の学年として任されるという、宝くじのような幸運に恵まれました。

そして、さらに幸運だったのは、下野竜也先生に指揮をして頂けることになったことです。第100回演奏会でどなたに客演指揮者をお願いするのか検討していたところ、大阪フィルハーモニー交響楽団のトレーナーの先生から「若手で素晴らしい指揮者がいらっしゃるから」と紹介して頂いたのが下野先生でした。そして第100回定演を指揮して頂くことに決まった直後の2001年9月、第47回ブザンソン国際指揮者コンクールで優勝されたというニュースが入ってきました。名実ともに「すごい方に振って頂くなんて…勿体なすぎる幸運でした。

下野先生の第一印象は、お若くて、熱い、そして怖そうな先生でした。緊張して練習に臨んだつもりでしたが、学生オケの甘さもあり、本当によく叱られました。記憶に残っているのが、本番まで残すところ1週間となった練習日。先生の雷が落ちました。ラフマニノフ2番・1楽章はじめ、アングレがソロになる箇所だったと思います。

『アングレがみんなの音楽を背負って一人で頑張っているのに、譜めくりの音がうるさすぎる!!』

…怒鳴って音練を出て行つてしまわれました。数分後、(部長・学指揮、数名が平謝りしたらしい)戻って来られて練習再開となりましたが、背筋が凍る出来事でした。

しかしその夜、4回生との飲み会に下野先生が来てくださいました。そして、いろいろお話をさせて頂く中で、先生は本当に私たちのことを見てくださっていたことを知ることになります。誰が誰のことを気にしながら演奏している、彼は2ndと1stバイオリンをいったりきたりしている、この子の音色は素直な音色だね…など。先生がアマチュアの学生オケに対しても真剣に向き合ってくださっているのだ、それなら私たちももっと本気で返さないと。怒鳴てくださったのも、本番を前にして、少し緊張感がなくなってきた雰囲気を察して、引き締めてさらに高みを目指そうしてくれたのだと感じました。次の日の練習は、団員の集中力が全く違うものになっていました。いい曲に仕上がってきました…そんな雰囲気を全員が感じていました。

そして迎えた本番当日は、冬晴れの美しい日でした。本番前にロビーに出たとき、お客様でロビーが溢れかえっていて、OBOGの方々もたくさんみて、すごい日になりました。

(第100回 コンサート・ミストレス<浅沼 佳奈>談)

「入団した時から『100回の学年』で先輩たちに言われていたので、やっぱり今まで築いてきていたいたいた楽団の記念演奏会を、演奏面でも運営面でも失敗するわけにはいかないな、というプレッシャーというか、気負いはありました。…思い出るのは、ラフマニノフ2番が始まる前。下野先生はじっと『間』をとっておられました。演奏者もお客様も、『無音』の状態を共有して、しんと静まりかえったホール。そこから始まつたあの一楽章の冒頭は今までで一番素晴らしい演奏だと自負しています。」

終演後、部長の北田くんに、下野先生はこう仰ったそうです。「純粋に、アマチュアの学生オーケストラを指揮するのはこれが最後になるかもしれない。最後まで印象に残るであろうコンサートとなった。ありがとう。」

卒団してちょうど10年が経ちました。細かいことの記憶は薄れてしましましたが、第100回記念演奏会を運営した経験、若い感性が本番の舞台で得た刺激と感動、そのときに培われた友人との絆は、人生を豊かにしてくれていると感じます。

改めて、第100回定演に向けて支えてくださったトレーナーの先生方、OBOGの先輩方、そして伝統ある関西学院交響楽団への感謝の気持ちを、この場をお借りして伝えたいです。



平成15年卒団員一同
(文責: 平成15年 社会学部卒
加藤 奈央佳 フルート)

麻疹(はしか)で演奏会が延期に

2007年6月1日、第109回定期演奏会に向けての全体練習中に突然音練5のめったにならない電話が鳴った。それは学生会館事務局から突然すぎる連絡だった。

「関西学院大学内で麻疹の感染者がでたため、この拡大を防ぐために6月2日から15日までの間、大学内への立ち入りを禁止する。また大学外でも関学生が集まることは避けること。感染拡大の影響によっては、立入禁止期間を延長する場合もある。」

この連絡を受けた当時の団員はかなりの衝撃を受けた。なぜなら定期演奏会本番は、6月24日だったからである。

「これから本番に向けて、音楽をつくりあげる段階で合奏練習ができないなんて! 本番まで日数が無い上に、学外でも集まることを禁止する!?」
「定期演奏会は開催できるのか!? 演奏会だって大勢の人が集まるのに、大学側は認めてくれるのか?」

当時の部長だった私は、すぐに練習を中止。団員に連絡し、念のため楽器を自宅に持ち帰ってもらつた。そしてすぐにパートトップを集合させ今後の対策について話しあった。結局、意見がまとまらずにこの日は解散。対応についてはメール等で連絡する旨を伝えた。

大学の帰り道、私はすぐに顧問である芝田先生や客演指揮をお願いしていた澤和樹先生、OB会事務局に連絡を入れ状況を説明した。団員からも様々な意見をもらった。しかし、前代未聞の出来事だった為、多くの助言はもらったが最終的な決断は部長に委ねられた。

私は演奏会をこのまま当初の日程通りに続行した場合、延期した場合、中止した場合の影響と対策ができる限り考えた。例えば客演指揮者、ホール、団員、OB会、お客様、広告、業者、予算、練習日程、エキストラなど。幸いなことに、客演指揮者と開催場所のホールは本番以外での予備日を確保することが出来た。後は演奏会を続行、延期または中止の決断をするだけだった。

この決断についてはとても悩んだ。気持ちとしてはこの状況から逃げ出しうになりたかった。就寝中もうなされて目が覚める日が続き睡眠不足が続いた。何度も何度も様々なことを考え抜き、結局は原点に返ることで最終的な決断ができた。それは自分自身に対しておこなった問いかけだった。

『問:曲の仕上がりが不完全で開催する。または中止して、後悔しないか?』

『答:後悔する。だったら演奏会はどんな結果になったとしても、延期して開催しよう。責任は自分でとろう!』

決断した後は、迅速な対応を心掛けた。延期となった演奏会の開催に向けて団員や各方面に連絡し、調整した。頭の中では常に次善の策を考え、行動した。演奏会の延期については、澤先生、芝田先生、OB会を始め、多くの方々からの応援を受けた。そして一番頑張ってくれたのは、当時の団員達である。突然の事態に不満や不安はあったと思う。しかし、最終的には全員が協力し、2007年7月14日いたみホールにおいて無事に演奏会を開催できたのである。

当時振り返って今思うことは、演奏会をやって良かった! 大変な事態であったけれど、今も後悔はしていないし、逆に良い思い出になっていることだ。こう思えるのは、たくさんの協力があったからだと思うし、団員をはじめ多くの方に、とても感謝している。もしあの時、演奏会をあきらめていたら、この先の人生をとても後悔することになったと思う。

あのような不測の事態にはならないように祈ってはいるが、どんな事態も協力して乗り越え、素敵な音楽を奏でる関西学院交響楽団でこれからもあってほしい。

平成20年 文学部卒 森川 愛 部長・コントラバス



祝！初・芸文

兵庫県立芸術文化センターは、2005年10月に阪神淡路大震災の復興のシンボルとして、関学の地元ともいえる西宮北口に完成しました。

当然のごとく誰もが芸文での定演を渴望していましたが、関オケは毎回のように抽選にはずれ、なかなかホールを確保することができずいました。そんな中、演奏会場の問い合わせの為芸文の事務所に電話をしたところ、ちょうどいい具合に空いている日が見つかり、「今すぐに来てもらえば予約可能です」と言われました。

その日は指揮者の中井章徳先生ともスケジュールがピッタリの数少ない日程で、すぐさま団員に「祝福の速報メール」を送信し、人生で最も慎重に原付を運転し芸文へ向かったことは忘れられない想い出です。ちなみに、皆無事にたどり着くことを授業そっちのけで願っていたそうです(笑)。

そして関オケにとって待ちに待った初めての芸文での定演。念願のホールで、満員のお客様が集まつてくださる中での演奏、そしてどこまでもあたたかい拍手に感動で胸がいっぱいになりました。

以来、来年2月の演奏会まで4年連続で関オケが芸文で演奏できるご縁ができ、また今日のOBオケの演奏会もこの芸文で開催することができ、現役団員とOBたちの熱い想いが実った結果を嬉しく思っています。

平成23年 総合政策学部卒 大久保 信克 ファゴット

27年ぶりの再会

1987年の福岡演奏旅行で、西南学院大学管弦楽団とジョイントコンサートを開催。両校の交誼はその後も続き、関オケからは道具屋筋で作った「西南学院」と書かれた大提灯を定期演奏会の差し入れに持参。そして、こちらの第70回定期演奏会(於:シンフォニーホール)の差し入れにいただいたのが徹夜で作られたこの手作りペナントである。27年間、部室にずっと飾られてきた。

今年の佐賀・福岡演奏旅行の際、当時の西南学院の皆さん一般公演にお越しくださるということで、現役がペナントを持参。27年ぶりの再会が実現した。

ペナントの紺色は褪せても『FRIENDSHIP SINCE 1987』の言葉どおり、両校の友情はこれからも褪せることはない。

平成1年 文学部卒
砥上 美也子 ピオラ



27年間部室に飾られてきた。



1987年、西南学院大学管弦楽団から贈られたペナントを団員が抱んで撮影。西南学院大学管弦楽団OBと関オケ演奏旅行マネージャー。時の経過と共に色は褪せたが友情は今も続いている。

HAGURUMA ENVELOPE

企画、デザインから制作まで最新の技術と斬新な
アイデアでお客様の幅広い要望にお応えします。



ハグルマ封筒株式会社

取締役会長
杉浦敬久
(昭和33年経卒 Vln)

本 社 〒559-8101 大阪府堺市東区八下町3丁50番地 TEL.072-251-2211 FAX.072-251-8903
東京営業所 〒150-0001 東京都渋谷区神宮前4丁目4番5号 TEL.03-6432-9880 FAX.03-6432-9878
ホームページ <http://www.haguruma.co.jp> E-mail post-h@haguruma.co.jp

Lesson Hall

レッスンホール

演奏者の立場になって音響設計された
本格的なクラシック音楽の練習ホール



ミニ・コンサート
各種オーディション
音大受験、コンクール受験前の調整に！

江戸堀コダマビル事務所
大阪市西区江戸堀1-10-26
TEL 06-6445-6020
(大阪・地下鉄四つ橋線肥後橋駅8号出口西1分)



演奏会のビデオ収録といえば… みゅーじっく めでいあ ぶろだくしょん ばふ

■ スタッフ全員がクラシック音楽の
『熱狂的爱好者=Buff』である。

〒558-0941 大阪府東大阪市岩田町6-7-4 1F TEL/FAX:072-965-8682 E-Mail:buff@concertvideo.jp

■ 『音楽専門』にとことんこだわり、
音楽しか録りません!!

■ 撮影プランから料金まで、
それぞれのお客様にピッタリの
『Buffオリジナルプラン』をご提案。

「High Quality & Low Price」で
納得と満足をお約束!!!



関西学院交響楽団は2013年、創部100周年を迎えた。

関西学院交響楽団

創部100周年記念

第122回定期演奏会

2014年 2/18(火) 開場18:00 開演18:45

兵庫県立芸術文化センター KOBE CO 大ホール

客演指揮 寺岡 清高 ヴァイオリン 長原 幸太 学生指揮 越智 雄太

入場料 ¥1,000 (全席指定)

チケット取り扱い

芸術文化センターチケットオフィス 0798-68-0255
10:00AM~5:00PM 月曜休み・祝日の場合は翌日

<http://orchestra.musicinfo.co.jp/~kgso1/>
<https://www.facebook.com/KwangakuOrchestra>

KOKUSAI GAKKI SHA OSAKA SHINSAIBASHI

世界一流の楽器が揃う。いい音楽が集まる。



1階 弦楽器



2階 管楽器



3階 音楽教室



4階 ホール

オールドヴァイオリンは著名オークション
会社や大手収集家よりコンディションの良い
楽器を厳選、収蔵。初めての楽器をお探しの方にはヨーロッパより独自ルートでご用意。
ヴィオラ、チェロ、コントラバス、新作、
オールドまで、質・量とも関西トップクラス。
修理、調整も行っています。

大阪 (株)国際楽器社
大阪市中央区心斎橋筋1丁目5番28号
TEL 06-6252-0222
URL www.kokusaigakkisha.com



大丸本店南角を東へ30m



フェリーチェ音楽院
兵庫県西宮市甲風円2丁目1番8号
TEL 0798-69-3301
URL felice-ongakuin.com

西宮・フェリーチェ音楽院で、素敵な音楽生活を始めてみませんか?
年齢や資格等の制限は一切ございません。
また当院では、練習室、サロンの貸出も行なっております。
練習室はアップライトピアノ設置のSルームが3室、グランドピアノ
設置のMルームが1室。サロンは座席数は50席前後ご用意でき、
スタンウェイグランドピアノB型を常設しております。

override



代表取締役 粟原裕(昭和33年商学部卒 オーボエ)



「つける・かける・和える」と
色々なお料理にプラスしてお召し上がりください。

本物志向 濃! 梅だれ

2種類の紀州南高梅の梅肉を贅沢に使い
果肉感たっぷりに仕上げました!!

本物志向 濃! 生姜だれ

風味豊かな高知県産黄金生姜をやさしい味わいの
塩こうじでまろやかなタレに仕上げました!!

濃い! 梅だれ
濃い! 生姜だれ

食品添加物は使用していません

食品添加物は使用していません

株式会社 キタマ [濃い! 梅だれ](http://www.kitama.co.jp) [検索](#)
<http://www.konzerthaus.jp>

代表取締役 北 潤 喜樹 (昭和56年経済学部卒 Hr. Cond.)

本社 〒570-0043 大阪府守口市南寺方東通4丁目4番15号
 Tel 06-6997-3761 (代) · Fax 06-6997-3772

私たち
大阪樟蔭女子大学生の
アイデアと、消費者の
意見を取り入れ、
使いやすさを追求した
逸品です。



新生児から使えるやさしさ トラブル肌・乾燥肌ベビー用 保湿スキンケア

- お肌をしっとり保湿する「うるおい補給成分」(ラノリン脂肪酸コレステリル:保湿剤)配合。
- トラブルを抱えたお肌でもしっとり使え、やさしく効果を発揮する天然由来成分「ヨモギエキス」を配合。
- 無香料・無着色・防腐剤無添加(一部商品を除く)・アレルギーテスト済み。^{*2}

① 保湿全身泡ソープ (350mL)/1,313円 ② 薬用保湿入浴剤 (500g)/1,470円

③ 保湿全身ミルキィローション (120mL)/683円

○ 価格はすべて税込です。○ お買い求めは、薬局・薬店・ベビー専門店、スーパーで。

※1 皮膚の乾燥によるものです。※2 全ての方にフレグーが起こらないというわけではありません。

タンペイ製薬・お客様相談室 ☎ 0120-500-461 午前9時より午後5時まで土・日・祝日を除きます

代表取締役社長 森 輝彦 (昭和40年社会学部卒 バイオリン)

商品が当たる
モニター募集中!!



アトピタ
モバイル
サイト

アトピタ

<http://www.tampei.co.jp>